

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 7月27日更新

事務事業名		高齢者総合相談事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	2	福祉の健康			所属部	健康福祉部	課長名	米澤 伸仁	
	施策	7	高齢者の自立と支援体制の充実			所属課	高齢者支援課	担当者名	坂本 みゆき	
	施策の柱	28	高齢者の生活支援の充実			所属班	包括支援センター班	(内線)	2152	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	根拠法令	介護保険法第115条の4第1項第3号・4号	成果優先度評価結果	①
			11	3	2	10458			コスト削減優先度評価結果	—
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	地域の高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者の心身の状況や生活の実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、機関又は制度の利用につなげるなどの支援を行う。 また平成21年度から福祉会館内の相談窓口(ランチ)開設箇所を設置し、旧合志地区の相談窓口として機能強化を図った。
【業務の流れ】	ア、地域におけるネットワークの構築 イ、実態把握 ウ、①初期段階の相談対応 ②継続的・専門的な相談支援であり、まとめると「高齢者の相談窓口の一元化」と「ネットワーク構築」が大きな業務である。
【主な予算費目】	報酬(非常勤社会福祉士分)・職員手当等(出向社会福祉士分)・委託料(総合相談窓口事業委託)、負担金補助及び交付金(出向社会福祉士分)
【意見や要望】	合志市包括支援センター運営協議会の中で、今後の包括支援センターのあり方では、ランチの強化が必要との意見が出た。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動)28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO) 包括支援センター及び福祉会館内の相談窓口(ランチ)において、相談(電話・来所・訪問)業務を行なった。		29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 包括支援センター及び福祉会館内の相談窓口(ランチ)において、相談(電話・来所・訪問)業務を行なう。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア:相談延べ件数	件	非常勤社会福祉士を2人から1人に減員した。社会福祉士出向職員給与改定による委託料の増。
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
高齢者やその家族。		→ ア:相談される高齢者・家族数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
高齢者やその家族が困ったとき、相談することにより問題解決ができる。		→ ア:処遇処理件数(実件数)
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
高齢化社会、核家族化の進行に伴い、多様な相談を増えてきている。それに応じて専門職が移動するため、相談件数を設定した。		全体計画 ～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標		ア イ	件 1,750	1,839	1,770	2,476	1,780	1,790	1,800	1,900
② 対象指標		ア イ	人 569	588	580	603	590	600	610	620
③ 成果指標		ア イ	件 365	386	380	339	390	400	410	420
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円		5,529	4,931	4,785	4,321	4,429	4,429
		都道府県支出金	千円		2,765	2,466	2,393	2,161	2,208	2,208
		地方債	千円							
		その他	千円			2,781	2,698	2,437	2,354	2,354
		繰入金	千円			2,466	2,393	2,161		
		一般財源	千円					2,222	2,222	2,222
	(A) 事業費計	千円	0	8,294	12,644	12,269	11,080	11,213	11,213	11,213
		(A)のうち指定経費	千円	0	8,294	7,447	7,107	5,670	5,190	5,190
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	78	149	80	141	39	39
	人件 費	正規職員従事人数	人	0	4	5	5	5	0	3
延べ業務時間		時間	0	1,150	453	335	453	453	0	1,200
(B)人件費計		千円	0	4,269	1,804	0	1,804	1,804	0	4,780
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	12,563	14,448	12,269	12,884	13,017	11,213	15,993

事務事業名	高齢者総合相談事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-----------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した 年々相談件数も増加し、ランチへの相談も増加傾向であり、相談の場として定着しつつある。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 身近な施設に社会福祉士を配置することにより、専門的な相談を受けられることの周知が図られたため、今後も多くの相談者が見込まれる。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 身近な所で相談が受けられるよう構築している。また今後は要支援者の増大が見込まれることから、関係機関とも連携をより強化して、迅速に対応していく必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 高齢者に特化した類似事業はない。関わりのある関係各課との連携は図られている。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 包括支援センターに必要な3職種中、高齢者の相談に応じる社会福祉士の出向負担金であり、削減の余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 地域包括支援センターの行う業務であるため、最低限の人件費であり、削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 様々な相談に対応し、解決するものであるため、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 法の趣旨に基づく事業であり、市が介護保険を適正に運営するために、保険者として関与すべき事業であるため、適正である。社会福祉協議会に委託し専門職員を配置している。各種機関との連携も図れている。

3 評価結果の総括 (CHECK)

合志市の2ヶ所の生活圏域において、地域包括支援センターがない地域で、ランチが総合相談窓口として機能している。困難事例も増加しているため、相応に連携をとり、高齢者支援にあたる必要がある。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 現在の合志市の生活圏域は、2ヶ所となっているため、地域包括支援センターがない生活圏域は、現状どおり、ランチを高齢者の総合相談窓口として、高齢者の支援にあたる。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 改善の余地なし																								